

令和7年度岩手県中学校新入生学習状況調査結果について（報告）

【要旨】

・経年比較問題において、国語は自分の考えや資料から読み取ったことをまとめて書くこと、数学は「データの活用」領域について、特に課題が見られた。
 ・問題が異なるため参考値ではあるが、令和6年度新入生学調と比較し、国語・数学ともに無解答率が増加している。
 ・明らかになった生徒のつまずきを教科に関わらず教師の授業改善につなげて、学力向上兼務者を通して各公所と連携し児童生徒の資質・能力の育成を図る

I 調査の概要

1 趣旨

- （1）中学校第1学年（義務教育学校第7学年含む）の生徒一人一人の学習の定着状況を把握し、その結果を基に中学校3年間の指導計画の作成及び指導の改善を図る。
- （2）各小学校（義務教育学校）において、出題趣旨と出身小学校別の調査結果資料から小学校での学び全般の実態を捉え、今後の教科指導に生かす。
- （3）全県的な規模で小学校修了段階における学習定着状況を把握するとともに、明らかになった学習のつまずきを分析し、学習面における中1ギャップへの対応と、今後の中学校3年間の授業改善に生かしながら、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 実施内容

調査種類	実施日	調査対象	対象数
教科調査/生徒質問調査	令和7年4月17日(木)	公立中学校第1学年・義務教育学校第7学年	8,915人

3 教科等の実施状況

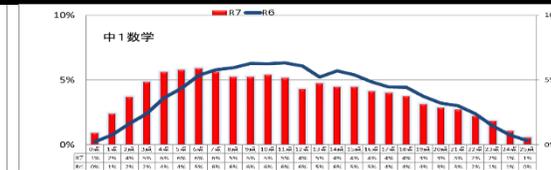
実施学年（実施校数）	国語	数学	生徒質問
中学校第1学年（140校）	8,445人	8,429人	8,437人

II 調査結果の概要

1 教科調査の結果

（1）各教科の平均正答率及び中央値

教科	平均正答率 ※参考値()はR6	中央値
国語	54.8% (59.0%)	56%
数学	44.0% (48.1%)	40%



R7…棒 R6…折れ線

（2）観点・領域等の平均正答率

①国語

観点・領域等	平均正答率 ※参考値()はR6	比較
知識・技能	71.3% (68.7%)	△ 2.6
思考・判断・表現（話すこと・聞くこと）	57.3% (57.6%)	▼ 0.3
思考・判断・表現（書くこと）	48.6% (56.8%)	▼ 8.2
思考・判断・表現（読むこと）	44.0% (52.9%)	▼ 8.9

②数学

観点・領域等	平均正答率 ※参考値()はR6	比較
数と計算	6問 51.0% (62.5%)	▼11.5
図形	6問 36.3% (30.8%)	△ 5.5
変化と関係	8問 46.5% (46.7%)	▼ 0.2
データの活用	5問 40.6% (50.5%)	▼ 9.9
知識・技能	17問 49.8% (55.2%)	▼ 5.4
思考・判断・表現	8問 31.5% (37.4%)	▼ 5.9

(3) 結果分析から見える今年度の主な特徴

① 経年比較問題の状況

ア 改善が見られた項目

	番号	通番	調査問題のねらい	平均正答率 ※参考値()はR6	比較
国語	3(3)	17	描写を基に、登場人物の心情を捉える。	37.8% (33.1%)	△ 4.7
	4(3)	21	文章の要旨を捉えて読む。	25.0% (21.3%)	△ 3.7
数学	7	10	比例の関係を利用して問題を解くことができる。	46.0% (33.4%)	△12.6
	13(1)	22	比例の関係について理解している。	84.9% (64.2%)	△20.7
	13(2)	23	反比例の関係について理解している。	32.1% (22.3%)	△ 9.8

国語：「読むこと」の領域について、登場人物の心情や文章の要旨を捉えて読むことについて、特に改善傾向が見られた。

数学：これまで経年比較で課題となっていた「変化と関係」領域における「比例・反比例の関係」について、特に改善傾向が見られた。

イ 改善が見られなかった項目

	番号	通番	調査問題のねらい	平均正答率 ※参考値()はR6	比較
国語	4(4)	22	文章の構成を捉えて読む。	44.2% (50.1%)	▼ 5.9
	5	23	根拠に基づいて自分の考えを書く。	53.6% (64.2%)	▼10.6
	5	24	資料から読み取ったことをまとめて書く。	20.8% (32.8%)	▼12.0
数学	9	14	平均する方法について考え、数学的に表現することができる。	39.2% (44.8%)	▼ 5.6
	11(2)	18	ドットプロットから中央値を求めることができる。	36.8% (41.4%)	▼ 4.6
	11(3)	19	データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断することができる。	45.0% (49.0%)	▼ 4.0

国語：文章の構成を捉えて読むことや書くことの領域において、自分の考えや資料から読み取ったことをまとめて書くことについて、特に課題が見られた。

数学：「データの活用」領域について、特に課題が見られた。

② 記述問題

	番号	通番	調査問題のねらい	平均正答率 ※参考値()はR6	無解答率 ※参考値()はR6
国語	5	23	根拠に基づいて自分の考えを書く。	53.6% (64.2%)	29.6% (22.1%)
	5	24	資料から読み取ったことをまとめて書く。	20.8% (32.8%)	34.0% (25.4%)
	5	25	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	36.4% (44.8%)	32.1% (24.7%)
数学	9	14	平均する方法について考え、数学的に表現することができる。	39.2% (44.8%)	17.7% (14.3%)
	11(3)	19	データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断することができる。	45.0% (49.0%)	9.8% (7.6%)
	15	25	データの特徴や傾向に着目し、結論について多面的に捉え考察することができる。	23.4% (-)	12.5% (-)

問題が異なるため参考値ではあるが、令和6年度新入生学調と比較し、国語・数学ともに無解答率が増加している。

Ⅲ 調査結果の活用と今後の取組

令和6年度全国学調との同一集団比較から、国語・数学の平均正答率に大きな成果が見られた学校があった。そのような学校の昨年の取組や、成果が見られた要因を分析し、県内にその取組を広げていく。また、今回の調査で明らかになった生徒のつまずきは、国語や数学だけでなく、他教科でも育成することができることから、学力向上担当兼務・兼任者と協力しながら各県公所及び市町村教育委員会の指導主事との連携を強化し、各学校における生徒のつまずきに着目した授業改善を支援する。